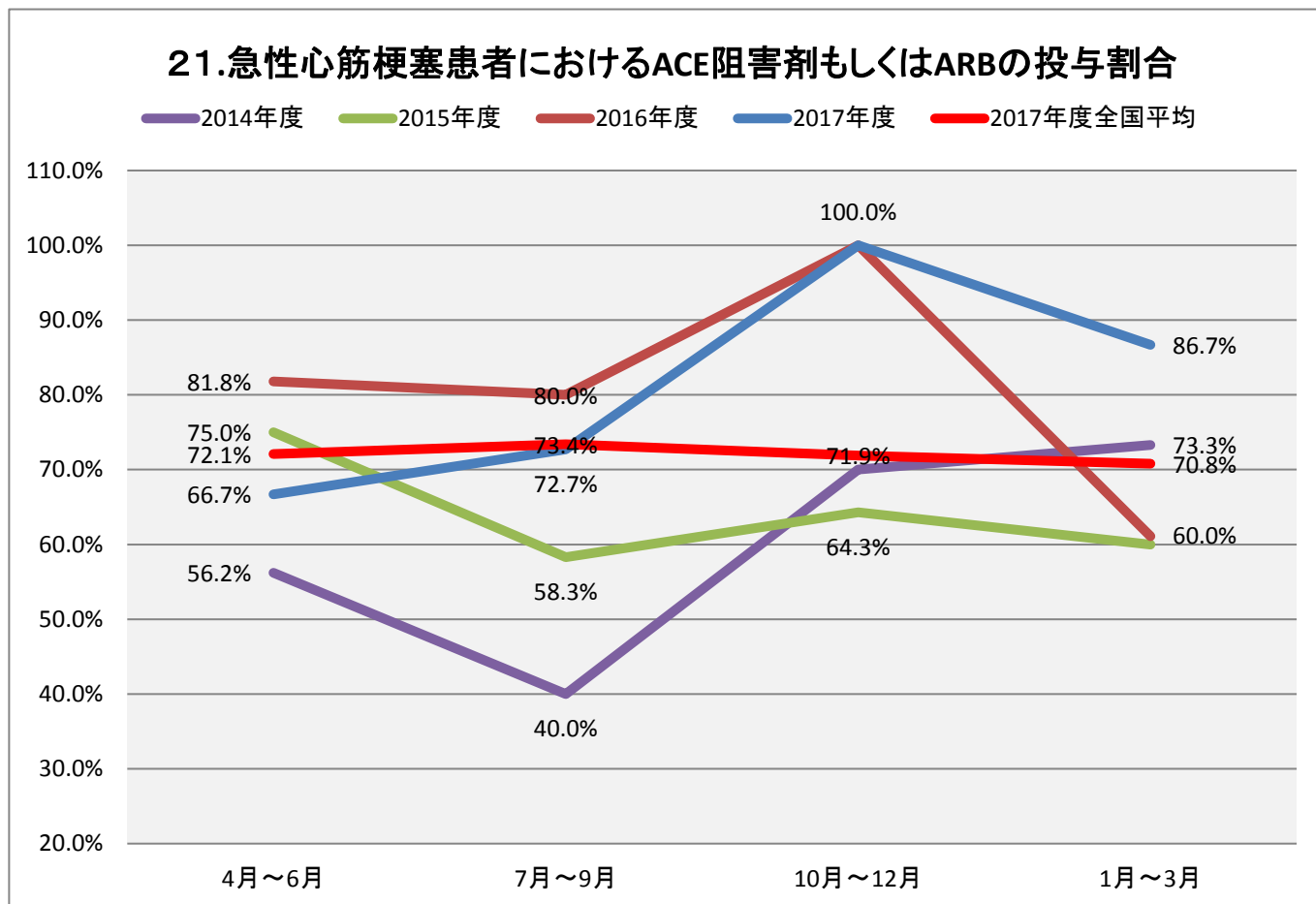


21.急性心筋梗塞患者におけるACE阻害剤もしくはARBの投与割合

(1)調査結果



調査期間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
2017年度	66.7%	72.7%	100.0%	86.7%
2016年度	81.8%	80.0%	100.0%	61.1%
2015年度	75.0%	58.3%	64.3%	60.0%
2014年度	56.2%	40.0%	70.0%	73.3%
2017年度全国平均	72.1%	73.4%	71.9%	70.8%

(2)指標の説明

急性心筋梗塞は、通常発症後2～3ヶ月以内に安定化し、大多数の患者さんは安定狭心症または安定した無症候性冠動脈疾患の経過を巡ります。心筋梗塞発症後の長期予後を改善する目的で、抗血小板薬、β-遮断薬、ACE阻害剤あるいはアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB)、スタチンなどの投与が推奨されています(日本循環器学会ガイドライン)。この処方率は海外の医療の質の評価指標としても採用されており、広く認識された指標であるといえます。

(3)定義

分子: 分母のうち、ACE阻害薬もしくはアンジオテンシンⅡ受容体阻害薬が投与された患者数
分母: 急性心筋梗塞で入院した患者数

(4)考察

当院では、適応のある患者さんに早期投与できるよう体制をさらに強化し、高い投与率になるよう努めています。
今後も継続していきたいと考えています。